

ヨルダン南部ジャフル盆地の遊牧化

—ハラアト・ジュハイラ 2 号遺跡の第 5 次補足調査(2018 年)—

藤井 純夫 金沢大学歴史言語文化学系教授
足立 拓朗 金沢大学歴史言語文化学系教授

Pastoral Nomadization in the Jafr Basin, Southern Jordan: Complementary Excavations at Harrat Juhayra 2, 2018

FUJII, Sumio Research Professor, Institute of Human and Social Sciences, Kanazawa University
ADACHI, Takuro Professor, Institute of Human and Social Sciences, Kanazawa University

1. はじめに

ハラアト・ジュハイラ 1~3 号遺跡(Harrat Juhayra 1-3)は、ジャフル盆地北西の玄武岩台地上に位置する銅石器時代の集落・墓域複合遺跡群である(図 1)。その内容は、遺跡によって異なる。1 号遺跡は、独立型のテール(freestanding tail)十数件、円形祭祀遺構

(enclosure)5 件、小型ケルン墓(burial cairn)数件から成る大型の葬祭遺跡である。一方、2 号遺跡は内容が複雑で、1 号遺跡と同様の(ただし、テール付きの台形納骨堂(tailed ossuary)も含む)大型の墓域・葬祭域に加えて、矩形の石積み住居(broadhouse)十数件から成る線状集落が並存し、さらには先土器新石器時代の小型集落 2 件(HJH-205, -202)も入れ子になって

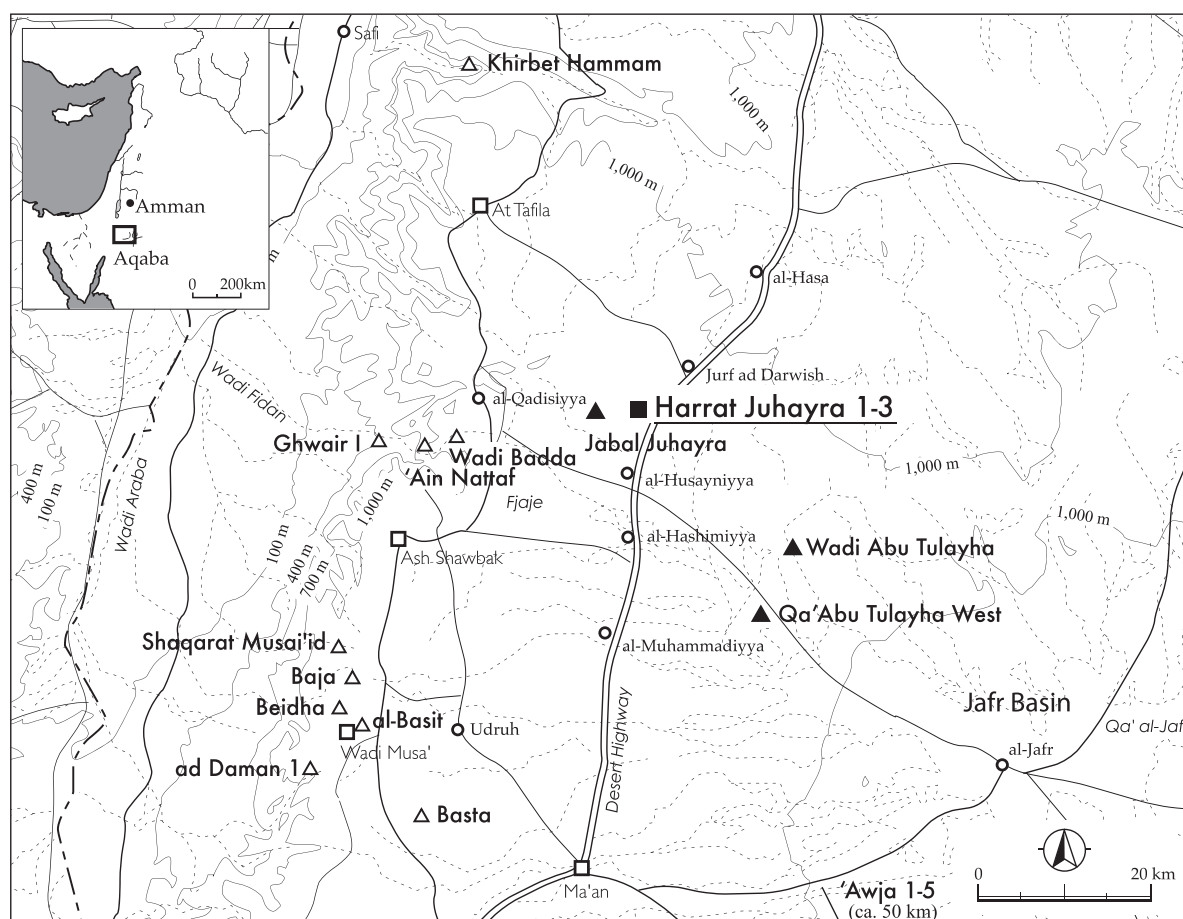


図 1 ハラアト・ジュハイラ 1~3 号遺跡群とその周辺の遺跡分布図

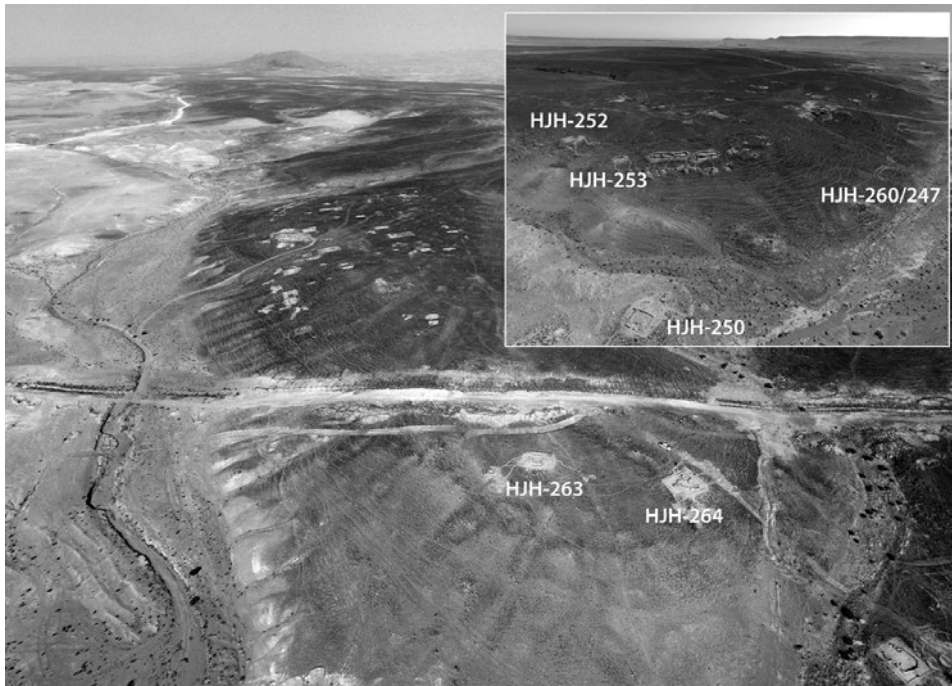


図2 ハラアト・ジュハイラ 2号遺跡：全景(南東から、右上は集落西端部分)



図3 ハラアト・ジュハイラ 264号遺構：全景(南から)



図4 ハラアト・ジュハイラ 264号遺構：全景(北から)

いる。3号遺跡は、独立型テール3基と円形祭祀遺構11件から成るシンプルな葬祭遺跡である。2016年度の第1～2次調査(藤井他 2017; Fujii *et al.* forthcoming a-c)、2017年度の第3～4次調査(藤井他 2018; Fujii *et al.* in print a-b)に引き続き、本年度は2号遺跡集落部分の補足調査を行った。

2. ハラアト・ジュハイラ 2号遺跡集落部分の補足調査

2号遺跡は上記玄武岩台地の南東隅に位置し、60数件の石造遺構から成る(図2)。その大半は、銅石器時代に比定される。今年度の補足調査では集落部分の東西両端で、矩形・円形複合遺構1件、矩形住居遺構3件、楕円形遺構1件、散水用小型ダム2基を、追加発

掘した。東から順に紹介する。

HJH-264号遺構(ハラアト・ジュハイラ 2号遺跡第64号遺構の意、以下同様)は、台地東端の緩斜面上に位置する複合遺構で、一辺約9.0×4.2mの矩形前室と、直径約4.0～4.5mの円形後室が、短い通路を挟んで連結していた(図3、4)。前室の南東壁中央に狭い入り口があり、室内右端に数件の石囲い炉、左端に2件の石囲い倉庫が組み込まれていた。一方、後室の北東隅には、粘土と玄武岩板石による一辺約1m×高さ約0.25mの方形台座(platform)が設けられていた。両遺構共に、南側壁面に短いテールを伴っていた。この複合遺構は、年代および型式から見て、テレイラト・ガッスル遺跡(Teilat Ghassul)やエン・ゲディ遺跡(En Gedi)に見られる特異な祭祀遺構の祖型と考えら



図5 ハラアト・ジュハイラ 264 号遺構：出土石器



図6 ハラアト・ジュハイラ 264 号遺構：出土祭祀用土器



図7 ハラアト・ジュハイラ 263 号遺構：全景(南から)

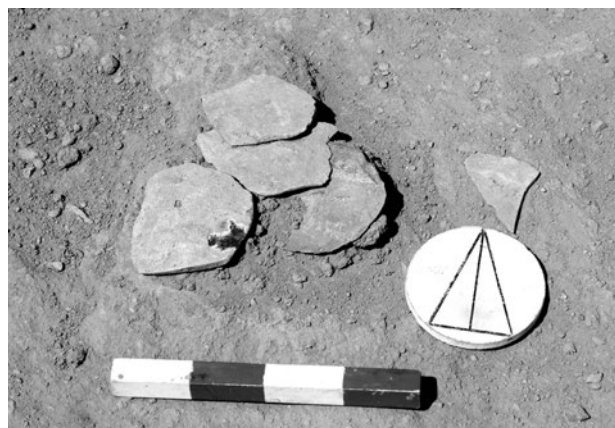
図8 ハラアト・ジュハイラ 263 号遺構：
タビュラー・スクレイパーのキャッシュ

図9 ハラアト・ジュハイラ号 260 号遺構：全景(南西から)

れる。なお、床面からは、粗製無文土器、スプーン状祭祀用土器、タビュラー・スクレイパー、ドリル、石製容器、石臼・摺石、石製パレット、貝製装身具、骨角器などが出土した(図5、6)。

HJH-263号遺構は一辺11.0×5.0mの大型矩形遺構で、前述のHJH-264から約50m南西の緩斜面上に位置する。中央部のみをトレンチ発掘し、南東壁中央に立石で縁取った幅0.7mの入り口があることを確認

した(図7)。床面からはタビュラー・スクレイパー5点のキャッシュのほか、赤色顔料の残る矩形パレットなどが出土した(図8)。

HJH-260/247号遺構は、台地の南側裾野部分に位置する一対の小型石造ダムである。前者の全長は約22.3m、後者のそれは約7.2mである。共に緩斜面の小型ワディに直行して構築されていたが、中央部は上流に向かって僅かに膨み、両翼は隣接緩斜面の等高線にそって延びていた(図9)。これは、民族例にも多い、緩斜面耕作地の散水用小型堰であろう。問題はその年代であるが、壁面の一部をトレンチ発掘した結果、周囲の矩形遺構と同じ層位(2c層)であることが判明した。従って銅石器時代の可能性が高いが、その裏付けとなる遺物やC-14年代の測定試料は回収できなかった。

HJH-250号遺構は、台地の南西斜面下端に位置している。トレンチ発掘の結果、一辺約7.9～3.9mの小型矩形遺構であることが確認された。土器片、フリント剥片が少量出土した。



図10 ハラアト・ジュハイラ号252号遺構：全景(南東から)

HJH-253号遺構は、同斜面の上端に位置する。北半分の半裁発掘によって、直径約4.0~5.6mの楕円形遺構が確認された。他の遺構と異なり、この遺構の壁面は1列1段の立石造りであった。土器片、フリント剥片・石刃が少量出土した。

HJH-252号遺構も、同じ斜面の上端に位置する。遺構中央部のトレンチ発掘によって、前年発掘したHJH-244、-256号遺構などと同様の前庭付き矩形遺構(forecourt-type broadhouse)であることが確認された(図10)。刻線文装飾の土器片、フリント剥片・石刃などが出土した。

3. その他の補足作業

上記以外に、2件の補足発掘を行った。HJH-207号遺構は、台地西端の平坦地に位置する全長約32mの大型テイルである。昨年度の調査で設けた南北2件のトレンチを連結するため、その中間部分(南北13m×東西4m)を追加発掘した。その結果、計5単位分のテイル連結が明らかになった。

HJH-128号遺構は、ハラアト・ジュハイラ1号遺跡の中央付近に位置する直径約21.5~23.5mの大型エンクロージャーである。今回の補足調査では、北西壁面に、(隣接する123・124号エンクロージャーと同様の)テイル状遺構が組み込まれていることを確認した。

4. まとめ

今季の補足調査によって、2号遺跡の全体像が判明した。集落に関してはその東端が延びて、1号遺跡南

端にあった数件の遺構群と連結し、全長約900mの断続的な線状集落を形成することを確認した。また、この集落が散水型小型ダム2基を伴う可能性があることも確認した。隣接集落における石臼・摺石の出土、墓域出土の人骨に残された跪座小面(kneeling facet)の痕跡などから見て、このダムが銅石器時代集落に付属する耕作地の簡易灌漑に用いられた可能性は高いと思われる。一方、墓域・葬祭域では、円形・矩形連結遺構を新たに確認した。集落、墓域、水利施設と三拍子揃ったこの複合遺跡の存在は、ジャフル盆地に独自の銅石器文化があったことを示唆している。予期せぬ発見に戸惑っているが、この文化が、同時代ヨルダン渓谷のガッスル文化、ネゲブ地方のティムニアン文化、(クルバン・ベニ・ムッラ遺跡に代表される)ヨルダン南緑乾燥域の立石祭祀文化とどう関係するのかを、今後明らかにしていきたい。

ハラアト・ジュハイラ遺跡群の銅石器時代集落・墓域・葬祭域の調査は、これで一段落した。次年度は、(第2次調査で部分的に発掘した)202号遺構周辺のPPNB前期集落の発掘を再開する予定である。

参考文献

- ・藤井純夫・足立拓朗・長屋慶憲(2018)「ヨルダン南部ジャフル盆地の遊牧化—ハラアト・ジュハイラ遺跡群の第3~4次発掘調査(2017年)—」日本西アジア考古学会編『第25回西アジア発掘調査報告会報告集』117-121頁。
- ・藤井純夫・足立拓朗・長屋慶憲(2017)「ヨルダン南部ジャフル盆地の遊牧化—ハラアト・ジュハイラ遺跡群の第1~2次発掘調査(2016年)—」日本西アジア考古学会編『第24回西アジア発掘調査報告会報告集』132-135頁。
- ・Fujii, S., Adachi, T. and Nagaya, K. (in print a) Harrat Juhayra 2: Excavations at a Chalcolithic settlement in the Jafr Basin, southern Jordan. *ADAJ* (Annual of the Department of Antiquities of Jordan) 62.
- ・Fujii, S., Adachi, T. and Nagaya, K. (in print b) Harrat Juhayra 1-3: Excavations at Chalcolithic burial fields in the Jafr Basin, southern Jordan. *ADAJ* 62.
- ・Fujii, S., Adachi, T. and Nagaya, K. (forthcoming a) Harrat Juhayra 205 and 202: Excavations of a PPNB encampment and an EPPNB settlement in the Jafr Basin, southern Jordan. *ADAJ* 61.
- ・Fujii, S., Adachi, T. and Nagaya, K. (forthcoming b) Harrat Juhayra 1-3: Excavations of Chalcolithic tailed ossuaries in the Jafr Basin, southern Jordan. *ADAJ* 61.
- ・Fujii, S., Adachi, T. and Nagaya, K. (forthcoming c) Harrat Juhayra 202: Early PPNB flint assemblage in the Jafr Basin, southern Jordan. *Proceedings of the 8th International Conference on PPN Chipped and Ground Stone Industries of the Near East*. Nicosia: University of Cyprus.